
日本地球化学会ニュース

No .176

2004 .3 .1

主な記事

- 学会記事
 - 2004年度日本地球化学会年会のお知らせ(1)
 - 2003年度日本地球化学会年会の報告
 - 第13回ゴールドシュミット国際会議 (Goldschmidt 2003)
終了報告
 - 日本地球化学会ロゴマークの決定
 - 評議員会，研連，各種委員会議事録
- その他のシンポジウム，人事公募等の各種情報のお知らせ
 - 書評
 - 訃報

現在，日本地球化学会のホームページを国立情報学研究所ホームページ内の学協会情報発信サービスの中で公開しております。研究助成，シンポジウム，人事公募等の各種情報は随時更新しておりますのでそちらをご覧ください。

URL アドレスは，<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj2/index.html> です。

また，独自ドメイン名を取得いたしましたので，こちらも公開中です。

URL アドレスは，<http://www.geochem.jp/>です。

2004年度日本地球化学会年会のお知らせ(1)

主催：日本地球化学会

共催：日本化学会

会期：2004年9月20日(月)～9月22日(水)

9月19日(日)午後からは静岡市のJR東静岡のグランシップにおいて一般の方を対象とした地球化学公開講演会を開催します。

会場：静岡大学静岡キャンパス共通教育棟（静岡市大谷836）

JR静岡駅から東に約4kmの日本平丘陵の裾にあります。静岡駅からバスで約20分です。

内容：課題討論，一般講演（口頭発表とポスターセッション），学会賞受賞講演，総会，懇親会（9月21日(火)に行います）

講演申し込み締め切り：2004年6月30日(水) 14：00まで，開始は3週間前6月9日(水) 14：00から

講演要旨の申し込み締め切り：2004年8月4日(水) 14：00まで，開始は2週間前7月21日(水) 14：00から

参加申し込みの締め切り：2004年9月1日(水) 14：00まで

各種申込の日程で、曜日と時間が指定となっておりますので、期日に遅れないようにするとともに、時間にもご注意願います。また、これらの申込は、いずれも学会のホームページ上から行うことを検討しています。詳細は、次号のニュースをご覧ください。

課題討論の課題を募集いたします。そのほか、夜間の研究集会も可能です。メールで申込をしてください。締切は両方とも**4月30日(金)**です。課題討論を計画される方は、予め主幹となる講演者のめどを付け、その課題での一般申込があればそれを受け入れてください。課題討論の課題名と担当者名は、次号のニュースに掲載いたします。

年会連絡先：

〒422 8529 静岡市大谷836

静岡大学理学部生物地球環境科学科

和田秀樹

Tel：054 238 4791，Fax：054 238 0491

E-mail：sehswada@ips.shizuoka.ac.jp

2003年度日本地球化学会年会の報告

日本地球化学会年会実行委員会

田中 剛・南 雅代・山本綱志

(名古屋大学・環境学研究科)

2003年度の日本地球化学会年会第50回年会は、9月7日(日)に、くらしき作陽大学(一号館)を会場として開催した。今年はゴールドシュミット国際会議が当地で同時開催されたため、年会開催は1日間、一般講演はポスターセッションのみという異例の年会となった。

年会の参加登録者総数は141名で、事前登録者103名、当日登録者38名であった。ポスター講演総数は63件であった。

また、中・高校生を含む一般市民の方々を対象とした講演「世界の海洋に学ぶ瀬戸内海の未来」を企画・実施した。紀本電子工業(株)の紀本岳志氏が「瀬戸内海をはかる 観測データが語る豊かな海の未来」、名古屋大学大学院環境学研究科の田上英一郎氏が「海の物質循環を動かす小さな生き物たち」と題して、それぞれ講演された。地元の岡山一宮高校や福山自強高校をはじめとする高校生も多数参加し、熱心に聴き取り、質問をしていた。聴衆アンケートを行ったので、その結果を最後に載せておいた。是非、次年度の参考にしていただきたい。

2003年度の学会賞等の表彰は総会の中で行ったが、受賞講演はゴールドシュミット国際会議中に行ったため、年会内では行わなかった。学会賞は兼岡一郎氏が受賞され、ゴールドシュミット国際会議の総会内で講演を行った。奨励賞は柴田智郎氏、松本潔氏、渡邊剛氏の3名が受賞され、同国際会議の一般講演内で講演を行った。

なお、今年も学会ホームページ担当の米田氏・小林氏の御協力を得て、学会ホームページに年会ページを立ち上げ、講演申し込み・参加登録・要旨送付を行った。昨年は講演要旨に関しては従来の郵送方式に限定していたが、今年はPDFファイル形式でのホームページからの受け付けも行った。蓋を開けてみると、郵送での要旨受付は2件であり、その他はインターネットによる受付であった。このことは、会員の間でPDF作成環境がかなり整っており、インターネットによる要旨受付が可能な段階にきていることを示している。ただ、今年は、例年に比べ講演数が少なかつたおかげで、大きなトラブルがなかったとも言える。今回は例年通りの講演数に増えることもあり、参考のために、小さなトラブルではあるが、要旨受付の際に気になった点をいくつか以下に記す。

(1) 講演申し込みの際に記入する抄録を要旨と勘違い

しており、講演申し込みをしているにもかかわらず要旨が届かなかった人が何人かいた。

- (2) 左上の講演番号を印刷するスペースを空けるなど、要旨作成上の注意を守っていない要旨がいくつか見られた。
- (3) 講演申し込みの時と、題目・発表者が異なる要旨が多々あった。

(1)(2)に関しては、地球化学会の“学生会員外”の人が誤っているケースが多く、不慣れが原因と考えられる。周囲の学会会員（指導教官？）が少し気を配ることで、このようなミスは防げられると思われる。学会ページ担当および年会事務局の負担を増やさないために、年会ページを通しての講演申し込み・参加登録・要旨送付の前に、今一度誤字がないか、表示形式に従っているかなどの基本的なチェックをお願いしたい。

ところで、今回の年会の参加登録費は、“ゴールドシュミット国際会議参加者は、予約申し込みに限り、会員で有る無しにかかわらず無料”と年会ニュースにおいて幾度も通知していたが、“予約申し込みでも当日受付でも無料”という意味に勘違いされている方が何人かおられた。後味の悪い思いをされた方もいらっしゃると思うが、年会運営に必要な経費であったと了承していただくと幸いである。

地球化学公開講演会「世界の海洋に学ぶ 瀬戸内海の未来」アンケート集計結果

総数42名の回答全部が、地球化学会の会員以外からのものである。それぞれの選択肢の後の（数字）が回答数である。

- あなたのお住まいはどこですか？
倉敷市内（2）、岡山市内（16）、それ以外の岡山県内（6）、岡山県外（16：静岡、東京、愛知、広島、鹿児島）
- 年齢を教えてください。また学校に行っている人は、学校を教えてください。
年齢：10歳以下（0）、10～19（27）、20～29（11）、30～39（1）、40～49（2）、50～59（1）、学校：小学生（0）、中学生（0）、高校生（26）、大学（院）生（6）、それ以外（予備校／専門学校など）の学生（1）
- この講演会をどのようにして知りましたか？
テレビや新聞で知った（0）、学校の先生から聞いた（32）、ポスターを見た（2）、友だちから誘われた（0）、その他（6：インターネット、学会ニュー

ス、現場で）

- 講演の内容は理解できたでしょうか（わかったでしょうか）？
よくわかった（11）、難かしい所もあったがわかった（19）、難かしくてよくわからなかった（7）
- 講演のどのような所がおもしろく、興味をもてましたか？ また今後、科学の講演会があれば、どんな話が聞きたいですか？ 複数をつけてもかまいません。
興味を覚えた内容：コンピュータ関係（5）、生命科学関係（9）、宇宙／太陽系関係（14）、地球環境関係（21）、災害関係（4）、物理関係（2）、化学関係（14）、地球科学関係（12）、その他（気象、特撮、アニメ、海洋）
- あなたは日本地球化学会の会員ですか？
はい（0）、いいえ（42）

以上の事から、いくつかのことが読み取れる。

倉敷市内からの聴衆が少なく、隣の岡山市、福山市からの客が多かったことである。

これは2、3番目の回答とも関係するが、開催の通知は、教育委員会や学校を通じてのものが最も効果が大きく、単にマスコミに流すだけでは効果が少ないことがわかる。

高校生が多かったのは、岡山一宮高校と福山自強高校からの集団参加による。

講演の難易度はちょうど良かったと思える。講師のかたがたの御努力の賜物である。

今後とも環境／化学／宇宙などの講演が期待されている。

第13回ゴールドシュミット国際会議 （Goldschmidt 2003）終了報告

地球化学・宇宙化学分野の総合的国際研究集会である第13回ゴールドシュミット国際会議（Goldschmidt 2003）は、2003年9月7日（日）～12日（金）の期間、くらしき作陽大学（倉敷市）を会場として開催され、成功裏に終了しました。会議の準備・運営にご協力いただいた皆様、および会議にご参加いただいた皆様へ厚くお礼申し上げます。

当会議は、当初は800人規模の集会を想定していましたが、実際の参加者は1,100人を越え、ほぼ同数の論文発表が行われました。日本、米国、中国、オース

トラリア、カナダ、イギリス、ドイツ等35ヶ国からの参加があり、とくにアジア・オセアニア地域からの参加が多かったこと、日本の学生の参加が多かったことは、この会議を日本で開催した意義として認められる点です。

特別シンポジウムテーマの策定にあたっては、昨年のダヴォス大会同様、国際プログラム委員会を組織して最近の重要な研究課題を網羅することに努めました。最終的に53件の特別シンポジウムと9件の一般シンポジウムからプログラムを作成しました。関心の高いトピックスとしては、宇宙における生命の起源と分布、太陽系の初期プロセス、地球形成初期の環境、サブダクション帯のプロセスと全地球物質循環、地球化学的固定と廃棄物の長期隔離等があります。新しい分析手法や、重元素安定同位体の分析と応用、生物圏と鉱物の相互作用などについても高い関心がありました。

くらしき作陽大学から立派な会場をご提供いただき、残暑が厳しいおりから、空調のきいた会場は参加者からの評判もすこぶるよいものでした。今回は、スライド・プロジェクターを採用せず、パワーポイントとOHPによる発表に限りましたが、周到的準備のおかげで運営はスムーズに行きました。また、インターネットルームの整備に力をいれましたが、これについても参加者からの評判はよかったです。

会議の準備・運営には、組織委員会メンバーを中心に全国の日本地球化学会会員のご協力をいただきました。準備・運営に携わった皆さんに感謝いたします。また、倉敷市やくらしき作陽大学をはじめ、地元の方々の全面的なご協力をいただきました。今回の会議を実現するにあたっては、その他実に多くの組織や個人から、財政的補助や有形無形のご支援をいただきました。ご協力いただいた方々にお礼申し上げます。

なお、今回の倉敷大会を機会に、日本地球化学会は、今後開催される Goldschmidt Conference の主催団体のひとつとなることを認められました。日本地球化学会会員は、参加登録料に関して会員割引が適用されますので、今後も奮って Goldschmidt Conference に参加して下さるよう、お願いいたします。日本地球化学会は、会議開催に際して学生グラントの一部を拠出いたします。また、会議の Plenary Session では、Geochemical Journal 論文賞の授賞式も行われます。

来年の Goldschmidt 2004は、2004年6月5日～11

日の期間、コペンハーゲンで開催されます。講演要旨の締めきりは2004年1月26日、事前登録締めきりは4月2日です。詳しくは次のウェブサイトをご覧ください (www.goldschmidt 2004.dk)。

[Goldschmidt 2003会議の概要]

開催期間：2003年9月7日(日)～12日(金)

開催場所：くらしき作陽大学(倉敷市)

主催：The Geochemical Society (国際地球化学会)

The European Association of Geochemistry
(欧州地球化学連合)

The Mineralogical Society of America (米国
鉱物学会)

日本地球化学会 (The Geochemical Society of
Japan)

後援：(独立行政法人)産業技術総合研究所、(学校法人)くらしき作陽大学、倉敷市、岡山県

学協会後援：20学協会(名称略)

協力機関：(特殊法人)国際観光振興会ほか

参加者数：1,170名(外国550名、国内620名)、うち同伴者42名(外国33名、国内9名)

論文投稿数：1,154件(口頭発表762件、ポスター発表392件)、うち特別講演4件

シンポジウム数：62件(特別シンポジウム53件、一般シンポジウム9件)

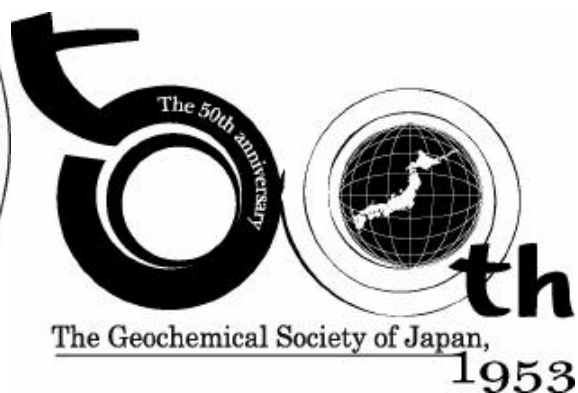
会場数：講演10会場+全体会議会場+ポスターセッション会場(前・後半2グループ)

その他の行事：ショートコース「ICP質量分析」、ゴールドシュミット国際会議記念倉敷市民講演会「地球と生命のふしぎ」、企業展示、アイスブレイカー、ウェルカムコンサート、バンケット、エキスカージョン(瀬戸内海クルーズと岡山、姫路城、九州)、ファミリープログラム、チャイルドケア

(第13回ゴールドシュミット国際会議組織委員会
委員長 松久幸敬)

日本地球化学会ロゴマークの決定

日本地球化学会50周年を記念して、ロゴマークを募集いたしましたところ会員以外の方2名を含め9名の方から応募をいただいた。一人で複数の作品を提案いただいたため合計21作品となった。そのうち一つの作品は、唯一50周年を表した50という数字を自転車の両



輪にデザインしたもので、力強い牽引力を思わせる作品で、評議員会で50周年ロゴとして使用することにした。ほかの20作品については、どれも作者の熱意が伝わる、地球化学の研究対象・手段をモチーフに過去と将来を見据えたものであった。今後未永く使うものにするために、会員から直接選んでいただくこととし、8月の役員改選の選挙の時に投票をすることにした。

その結果、投票総数163（無効2）となり、静岡在住の杉山浩さんの作品が1位となった。9月7日(日)倉敷作陽大学での総会の中で、これらの結果と作品が紹介され、表彰式には、50周年記念ロゴを作られた京都在住の横道聡さんが出席され、表彰状と金一封が送られた。

今回選ばれた2つのロゴマークの白黒版を掲載いたします。カラー版は、ホームページから見るができます。

多くの会員のみなさまから、沢山の作品を応募いただきありがとうございました。

日本地球化学会のロゴ（杉山さんの作品説明）

日本の象徴富士山を背景に、フラスコ型のマグマだまりから冷却されたマグマとガスと沈み込むプレートを表し、空に惑星と恒星を配置したデザインです。マグマだまりは日の丸のイメージがだぶる。対称と非対称のコンビネーション、中央の赤が強いアクセントになる。

日本地球化学会創立50周年のロゴマーク（横道さんの作品説明（抜粋））

50周年で区切りをつけることよりも、次への展開へと進みゆく「軽快さ」を押しだし、無機的なデザインを取り入れて動きを出した。日本地球化学会の50年の歩みをひとつのサイクルと考え、遠目に自転車（サイクル）とも想像させ自転車の舵には「5」の文字をデフォルメしたものを、そして力強い舵に引っ張られているのが「0」の文字。「5」の文字が日本地球化学会とするならば、「0」の文字が地球を表わす。カラーは緑の地球を強調させるために、赤系を基調とし、明度を落とすことにより50年間の格式を表わした。

2003年度第2回「鳥居基金」 助成実施報告書（TE 35）

氏名：中川書子（北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻）

助成：研究集会

課題：2003年度地球化学若手シンポジウムの報告

地球化学若手会（地球化学に興味のある自称若手研究者）主催の「2003年度地球化学若手シンポジウム」は、10月17日(金)から10月19日(日)の3日間にわたって、東京大学本郷キャンパス（理学部化学本館5F講堂）を会場として開催されました。この地球化学若手会では、地球化学に関心のある若手の研究者と学生が集い、活発な議論を行ない、交流を深めることを目的として、毎年シンポジウムを開催しておりまして、前身である海洋化学若手会（1977年発足）を含めると今回で25回目となります。従来はどちらかというと海洋

を中心に大気や水圏を研究対象としている若手研究者の集まりでしたが、昨年度より固体地球分野の若手研究者にも呼びかけを行い、地球化学若手会をその名に相応しく全分野に広げました。

今年度の参加者総数は111名と、これまでに比べ2～3倍の規模となりました。参加者を学年別に分けると、社会人が27名に対し、学生が84名(博士:27名,修士:45名,学部:12名)と、若い世代の積極的な参加が見受けられました。また分野別に見ますと、大気/降水38名(20%),陸水13名(7%),海洋37名(19%),温泉/熱水14名(7%),生物6名(3%),有機物27名(14%),堆積物17名(9%),鉱物14名(7%),岩石/地殻15名(8%),地球外物質9名(5%)と、大気・海洋分野からの参加者が若干多い傾向にありますが、参加歴の浅い分野の参加者が増えているのは間違いなく、大変喜ばしい結果となりました。

本シンポジウムの内容については、地球化学全分野の理解を深める事を目的として、各分野の第一線でご活躍されている研究者に講演をして頂く「招待講演」及び「レビュー講演」と、若手研究者同士の情報交換の場、学生の発表や質疑応答の訓練の場となる一般講演(口頭発表・ポスター発表)を用意しました。さらに3つのテーマ〔何故それを研究対象に選んだのか? 何故その研究手段として化学を選択するのか? 何故その対象元素(分子・同位体)を測定対象に選んだのか?〕を設けて、講演者にはその3点が明確になるような講演をして頂きました。また、学会と違い、学生が質問しやすい雰囲気作りに勤めました。

講演数は、招待講演が4件〔大場武氏(火山化学)、垓本尚義氏(宇宙化学)、鍵裕之氏(固体地球化学)、徳永朋祥氏(陸水学)〕、レビュー講演が3件〔大庭雅寛氏(有機地球化学)、小畑元氏(海洋化学)、梶井克純氏(大気化学)〕あり、各分野の基礎から最新のトピックスまでの興味深いお話を紹介して頂き、学生からの質問も多く見受けられました。また、一般講演については、口頭発表が21件、ポスター発表が36件の合計57件があり、その内容は異分野の学生にも理解出来るよう創意工夫されており、活発な議論が数多く成されました。まだ参加歴の浅い固体地球系の参加者の発表が控えめでしたが、次年度より増えてくるのではないかと期待しております。尚、本シンポジウムの内容については、ホームページで公開しております。

http://marchem.ep.sci.hokudai.ac.jp/2003_geochem_

sympo.html

最後になりましたが、本シンポジウム開催のための補助を決定して頂きました日本地球化学会に深く感謝致します。有り難うございました。

2003年度地球化学若手シンポジウムスタッフ

【代表】中川書子(北大・理)

【大気/降水/陸水】奈良英樹(東工大・総理工D2)・小松大祐(北大・理D2)

【海洋/熱水/温泉】大久保綾子(東大・海洋研D2)・梅沢有(東大・海洋研D3)・土岐知弘(北大・理D3)【有機物/堆積物/鉱物】藪田ひかる(都立大・理PD)・神谷奈津美(東大・理D1)

【岩石/地殻/地球外物質】大野剛(東工大・理工D1)・海老沢紀子(東大・理D2)・清水綾(東大・理D1)

日本地球化学会2003年度 第2回評議員会議事録

日時:2003年5月17日(土) 13:00~18:30

場所:東京大学山上会館001会議室

出席者:野津会長,田中副会長,脇田宏監事,鍵裕之,奈良岡浩,植松光夫,米田成一,蒲生俊敬,松田准一(以上幹事),石橋純一郎,川幡穂高,北逸郎,佐竹洋,佐野有司,清水洋,富樫茂子,長尾敬介,野尻幸宏,乗木新一郎,益田晴恵,松久幸敬,南川雅男,垓本尚義(以上評議員)

1. 2003年度第1回評議員会議事録の承認
2. 報告事項

2.1 庶務(鍵幹事):【幹事会】2003年5月10日(土)13:00~17:00に山上会館会議室で開催した。出席者:野津会長,植松,鍵,蒲生各幹事。第2回評議員会の議事内容について整理した。【庶務一般】IUGG 2003組織委員会事務局より名誉会員のメンバー,住所等の問い合わせがあり,対応した(5.6);陸水研連メンバーの赤木会員を通してIUGG札幌における学会展示の依頼を受けた(4.7);5月末までに対応する必要がある。【文部科学省】平成15年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の交付内定書受領(内定額123万円)(4.16);同補助金「研究成果公開促進費」の交付申請書提出;ゴールドシュミット会議への補助金の交付内定書受領(内定額

- 1,091万円)(5.16)【日本学術振興会】平成14年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」(学術定期刊行物)の確定通知書受領(確定額520万円)(3.13);平成15年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」(学術定期刊行物)の交付内定書受領(内定額490万円);同補助金の交付申請書提出(5.12)【学術会議】科学研究費補助金に係る審査委員候補者(細目「宇宙地球化学」第一段審査委員候補6名と分科「地球惑星科学」第二段審査委員候補3名)を地球化学・宇宙化学研連に推薦;科学研究費補助金に係る審査委員候補者(細目「環境動態解析」第一段審査委員候補2名と分科「環境学」第二段審査委員候補2名)を地球化学・宇宙化学研連に推薦;第19期学術会議会員選挙(野津会長,佐野評議員)(5.15)【研究助成等】地球化学研究協会より2003年度「三宅賞」と「奨励賞」の推薦依頼(締切:8.31);2003年度第1回鳥居基金助成の決定と実施;2003年度第2回鳥居基金助成の募集(締切:7.31,ニュース・HPに掲載);トヨタ財団,研究助成の公募「多元価値社会の創造」,直接申し込み。【後援・共催等】日本堆積学会の発足とシンポジウムポスターの受領(3.24);第41回原子力総合シンポジウム(共催:5.21~22)ポスター受領(5.6);ゴールドシュミット国際会議記念・市民講演会「地球と生命のふしぎ」2003.8.24,ライフパーク倉敷大ホール,1300~1630,共催(5.13)
- 2.2 会員(植松幹事):名簿号の編集準備を進めている。会員表示順序の変更を検討する。
- 2.3 会計(奈良岡幹事):特になし
- 2.4 編集
- 2.4.1 GJ(松田幹事):Vol.37, No.1,2が発行された。投稿数は昨年とほぼ同数。50周年事業の一環としてVol.35までCD-ROM化を進めている。GJ論文賞の選考を行った。投稿数の増加のためA4化を検討する。覚書を確認した。
- 2.4.2 地球化学(蒲生幹事):37巻1号を発行した。2003年1月1日より5月7日までの投稿論文数は4編で原著論文3(1編を却下)報告記事は1編。投稿論文数の減少傾向が続いている。
- 2.4.3 ニュース・ホームページ(米田幹事):No.172を発行した。14年度年会に関して,J-STAGE上での講演抄録の掲載について講演者全員に可否を電子メールで確認し,講演をキャンセルした1件のみを除いて承諾を得た。J-STAGE上で年会申し込みを行う準備を進めている。講演要旨のJ-STAGE上での公開の時期について検討する必要がある。
- 2.5 行事
- 2.5.1 2003年度年会(田中副会長):2003年9月7日(日)に,くらしき作陽大学で開催する。地球化学市民講座,一般講演(ポスター),総会を行う。講演申し込みは5/23~6/10,要旨受付は7/2~7/15となる予定。
- 2.5.2 2004年度年会(和田幹事,代理鍵幹事):2004年9月19日(日)から22日(水)の予定で静岡大学で開催される。
- 2.5.3 2005年度年会(和田幹事,代理鍵幹事):琉球大学において開催の予定。
- 2.5.4 2003年度地球惑星科学関連学会合同大会
- 2.6 委員会
- 2.6.1 学会賞等受賞者選考(蒲生幹事):各賞の候補者として兼岡一郎会員の学会賞,柴田智郎会員,松本潔会員,渡邊剛会員の奨励賞が委員会から推薦された。
- 2.6.2 名誉会員推薦(田中副会長):今年度は名誉会員の推挙は行わない。
- 2.6.3 鳥居基金(清水評議員):2003年度前期は1件国際会議参加を助成した。後期の助成を7月末日で受け付ける。多くの応募を期待する。
- 2.6.4 50周年記念事業(田中副会長):地球化学会ロゴの制定作業,公開市民講座の準備状況などについて報告された。
- 2.6.5 地球化学書編集(松久評議員):第3巻は6月末に発刊の予定
- 2.6.6 Goldschmidt 2003組織(松久評議員):論文投稿数は概数で1,150件であった。そのうち国内が520件,国外が630件。口頭発表750件,ポスター発表400件(暫定数)。講演の会場割りあてを検討した。プログラムの概要,ショートコース,広報活動などについて準備状況が報告された。6月23日プログラム公表。7月7日 early registration,パンケット,宿泊,エキスカージョンの締め切り。
- 2.7 学術会議
- 2.7.1 第19期学術会議会員選挙(野津会長):野津会長と佐野評議員が5/15に選挙に参加した。
- 2.7.2 地球化学・宇宙化学研連(田中副会長):第18期第7回委員会が2003年2月27日に開催された。来年度の科研費のキーワードは従来通りとなる見込みである。第8回委員会が5月15日に開催された。科

研費審査員候補者を学術会議に推薦した。日本地球化学会会員以外を対象として、環境関連の研究教育機関に対して調査したアンケート「環境学における地球化学のあり方について」の集計結果について報告された。

2.7.3 海洋科学研連（蒲生幹事）：第18期第8回委員会が2003年3月11日に開催された。配布された議事録に基づいて報告された。

2.7.4 鉱物研連鉱床学専門（鍵幹事）：第18期第8回委員会が2003年2月28日に開催された。配布された議事録に基づいて報告された。

2.7.5 陸水研連（代理鍵監事）：IUGG 札幌に学会紹介のポスターを出すことが依頼されている。

2.8 連絡会等

2.8.1 地球惑星科学関連学会連絡会（清水評議員）：合同学会最終日に連絡会が開催される。日本地球化学会の連絡会の会長はこれで任期を満了する。次期の会長は地震学会から選出される予定である。

2.8.2 理工学における同位元素・放射線研究発表会運営委員会：第40回理工学における同位元素・放射線研究発表会のプログラムについて報告された。

3. 審議事項

3.1 入退会者の承認：2003年1月1日から2003年3月31日までの入退会者を以下の通り承認した（敬称略）
会員異動（2003/1/1～2003/3/31）

【入会】正会員5名（一般正会員3名（うち海外会員1名）、学生会員2名）

（1月）

2240海 KRALJ Polona
Geological Survey of Slovenia

（2月）

2241学 長谷川 潤 HASEGAWA Jun
上智大学理工学部化学科無機化学研究室

2242学 川井 智 KAWAI Satoshi
上智大学理工学部化学科無機化学研究室

（3月）

2243 和田 晃 WADA Akira
気象研究所地球化学研究部

2244 久好圭治 HISAYOSHI Keiji
大阪府立春日丘高等学校

【退会】正会員31名（一般会員29名、学生会員2

名）、賛助会員3件

藤崎克博、橋本丈夫、今橋正征、真鍋弘道、村田貞雄、長屋裕、島崎英彦、下平勇、杉山邦夫、鈴木幸喜、都留信也、富田毅、山田秀和、鷲猛、三辻利一、五十嵐利夫、野崎義行（逝去）、早瀬光司、宇山史剛、先原一也、中村清、加藤俊典、磯野良介、海老沼孝郎、辻治雄、町野彰、村尾佳美、荒川浩成、鍋谷淳、佐藤宗平、藤根和穂、東京ガス(株)技術企画部、(株)数理計画、日鉄鉱業(株)

2003年3月31日現在の会員数

	正会員（一般正会員）	（学生）	（シニア）	賛助会員	名誉会員	計	（在外）
2003.1	997	(891)	(96)	(9)	17	13	1027 (55)
入会	5	(3)	(2)				5 (1)
退会	31	(29)	(2)	3			34
うち逝去		1					
変更		(+2)	(-2)				0 (-1)
2003.3	971	(868)	(94)	(9)	14	13	998 (55)

3.2 除籍者の取り扱いについて

会員除名の条件について審議を行った。滞納期限を5年から2年に短縮とする。会費督促のメモは同封しない。当該年度の3回目の請求の際に退会の方法などを示す。会則の変更はしない。

3.3 平成14年度決算が承認された。

3.4 学会賞等受賞者の承認：学会賞候補者として兼岡一郎会員、奨励賞候補者として柴田智郎会員、松本潔会員、渡邊剛会員の授賞を承認した。GJ 論文賞は Nicolas Dauphas 氏、Laurie Reisberg 氏、Bernard Marty 氏に授与されることを承認した。論文名：An alternative explanation for the distribution of highly siderophile elements in the Earth. *Geochemical Journal*, Vol 36, No 5, 409-419 (2002)

3.5 学術会議研連委員の選挙

地球化学・宇宙化学：清水洋、海老原充、長尾敬介、佐野有司、蒲生俊敬、野尻幸宏、益田晴恵、富樫茂子

海洋科学：蒲生俊敬、植松光夫、乗木新一郎

陸水：高田秀重、佐竹洋

鉱物学（鉱床学）：千葉仁、富樫茂子

地球物理（惑星科学）：坂本尚義

3.6 学会ロゴマークの選考方法（鍵幹事）学会ロゴは役員選挙に同封して全会員から投票する。

4. 次回以降の幹事会、評議員会の日程

第3回幹事会 2003年8月30日

午後1時より 東大山上会館
第3回評議員会 2003年9月6日
午後4時より ホテル倉敷
日本地球化学会総会 2003年9月7日
くらしき作陽大学
新旧合同評議員懇談会 2003年11月29日
場所は未定

日本地球化学会2003年度 第3回評議員会議事録

日時：2003年9月6日(土) 16:00~19:00

場所：ホテル倉敷会議室

出席者：野津憲治会長，田中剛副会長，脇田宏監事，植松光夫，鍵裕之，蒲生俊敬，奈良岡浩，松田准一，米田成一，和田秀樹（以上幹事），石橋純一郎，川幡穂高，坂田将，篠原宏志，清水洋，長尾敬介，野尻幸宏，坂本尚義，益田晴恵，松久幸敬（以上評議員）

1. 2003年度第2回評議員会議事録の承認
2. 報告事項

2.1 庶務(鍵幹事):【幹事会】2003年8月30日(土)13:00~18:00, 東大山上会館001会議室で開催。第3回評議員会の議事内容について整理した。【出席者】野津, 田中, 植松, 鍵, 蒲生, 奈良岡, 松田, 米田, 和田。【庶務一般】学会賞等受賞通知(6.15); 受賞講演依頼(7.6); 2003年度GJ・地球化学の販売に関する覚え書きをテラ学術図書出版と交換; 特許庁より特許法第30条第1項の規定に基づく指定学術団体の活動状況調査依頼があり, 会長氏名・所在地・会員数などを回答のうえ, 役員一覧, 会員名簿, 「地球化学」, 「Geochemical Journal」各1冊を添付した(8.21); 地球化学名簿号を発行した; 合同学会プログラム委員に鈴木勝彦会員(正, JAM-STECC), 角皆潤会員(副, 北海道大)を推薦した。

【文部科学省】平成15年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公开发表(B)」の交付決定通知の受領(7.7)(123万円, 交付内定額と同じ); 平成15年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公开发表(C)」の交付決定通知の受領(7.7)(1,091万円, 交付内定額と同じ); 受領(口座入金)(8.1)。【日本学術振興会】平成15年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(学術定期刊行物)交付決定通知の受領(6.6)(490万円, 交付内定額と

同じ); 同科研費補助金の交付申請書の提出(6.9); 受領(口座入金)(8.18)。【研究助成等】日産科学振興財団: 日産科学賞の募集(財団締切: 8.29, HPに掲載); 女性科学者に明るい未来をの会, 2004年度「猿橋賞」受賞候補者(締切: 11.30)と研究奨励賞候補者(締切: 11.30と2002.4.30)の推薦依頼公示(ニュース掲載); (財)日本科学協会: 平成16年度笹川科学研究助成募集公示(締切: 10.15, ニュース掲載); 2003年度第2回「鳥居基金」の応募締め切り(7.31)。申請内訳は, 海外渡航用1件と国内研究会用3件。【学術会議】第19期学術会議の会員として推薦すべき者についての通知受領(7.3); 日本学術会議海洋科学研究連絡委員会より, 第19期日本学術会議海洋科学研究連絡委員会委員候補者の推薦依頼があり(6.27), 蒲生俊敬会員を推薦した。植松会員を補欠として推薦した(7.24); 地球化学・宇宙地球化学研究連絡委員会より, 第19期地球化学・宇宙地球化学研究連絡委員会委員候補者5名の推薦依頼があり(7.28), 清水洋会員, 長尾敬介会員, 海老原充会員, 蒲生俊敬会員, 佐野有司会員を推薦した(8.14); 地質科学総合研究連絡委員会より, 第19期地質科学総合研究連絡委員会環境地質学専門委員会委員候補者の推薦依頼があり(8.17), 清水洋会員, 海老原充会員の2名を推薦した(8.31); 鉱物学(鉱床学)研究連絡委員会より, 第19期鉱物学(鉱床学)研究連絡委員会委員候補者1名の推薦依頼があり, 千葉仁会員, 富樫茂子会員を推薦した; 陸水学研究連絡委員会より, 第19期陸水研究連絡委員会委員候補者1名の推薦依頼があり, 高田秀重会員を推薦した。【後援・共催等】第47回「粘土科学討論会」(2003.9.24~26, 広島大学)共催; 第14回「大気化学シンポジウム」(2004.1.7~9, 愛知県豊川市民プラザ)協賛; 「ハットンシンポジウム」(2003.9.2~6, 豊橋)後援。

- 2.2 会員(植松幹事): 滞納者, 住所不明者のリストが回覧された。10月末日までに入金がない場合は除籍となることが確認された。会費滞納による除名(退会)のルールが変更になったことをメーリングリスト, ホームページなどで会員に周知する。
- 2.3 会計(奈良岡幹事): 2003年度会計中間決算が報告された。
- 2.4 編集
- 2.4.1 GJ(松田幹事): Vol.37, No.3と4が5月,

- 7月に発行された。20編が印刷待ち，No.5までで102ページまで準備済み。本年も大幅に増ページになる。8月25日現在での投稿数は62編で，増加の傾向にある。A4化を2004年度から行う。外国のA4にした。テラ出版はA4化してもページあたりのコストは据え置くことが了解された。ゴールドシュミット会議ではインパクトファクターに効果があるVol.36と37，No.4までのCDを配布する。会員向けのGJのバックナンバーファイルはCDで配布するとCDが6枚になって費用が600万円も必要となる。DVDでは50～60万円のできるで作成して会員に配布する。Elsevierから電子ジャーナルの件でリンクしたいという希望が来た。GJの電子化を早急に検討する必要がある。EPS方式にならない，外国の図書館に対して90ドルを足せばIPアドレスを登録してGJを自由に閲覧できるようにする。90ドル分はテラの取り分とする。会員には年度ごとにIDとパスワードを渡す。来期からの編集長は赤木右会員が内諾している。
- 2.4.2 地球化学(蒲生幹事): 37巻2号および3号を6月2日，8月1日に発行した。4号は例年通り12月発行予定。ゴールドシュミットコンファレンスに各セッションごとに半ページのGoldschmidt 2003国際会議で注目された100の講演(仮題)の掲載を計画している。投稿論文が少ない傾向が慢性化している。論文投稿の呼びかけを実施したい。A4化については時代の趨勢から進めるべきではあるが具体的にはまだ検討していない。
- 2.4.3 ニュース・ホームページ(米田幹事): No.173は6月上旬，No.174は8月上旬に発送済み。ニュース電子メール版は前回評議員会後10回送信した。年会講演申し込みと要旨受付をJ-STAGEを利用して行った。年会講演要旨のJ-STAGE上での公開の時期は，年会終了後1ヶ月以上後から公開することを基本として準備をする。
- 2.5 行事
- 2.5.1 2003年度年会(田中副会長): 2003年9月7日(日)に，くらしき作陽大学で開催される。講演数ポスター63件，公開講座2件，参加登録104件。
- 2.5.2 2004年度年会(和田幹事): 2004年9月19日(日)(市民講演会)，20(月)～22(水)に年会。静岡大学大谷キャンパスにて行う。準備委員会を発足した。2005年度年会は琉球大学が引き受けることが承諾されている。
- 2.5.3 2005年度年会(和田幹事): 琉球大学において開催の予定。
- 2.5.4 2003年度地球惑星科学関連学会合同大会(清水評議員): 5月26から29日，幕張メッセで行われた。来年度以降も幕張メッセで行う。
- 2.6 委員会
- 2.6.1 鳥居基金(清水評議員): 第2回は海外派遣1件，国内研究集会3件の応募があった。海外派遣は鄭国東会員，国内研究集会は原田尚美会員，中川書子会員の2件が採択された。助成額は各10万円。
- 2.6.2 50周年記念事業(田中副会長): 年会のバッジ，封筒などに50周年記念ロゴを使用している。
- 2.6.3 地球化学書編集(松久評議員，代理野津会長): 3巻マントル・地殻の地球化学が発刊された。著者割引ならびに会員割引(2割引)で発売がされており，2003年会の受付，ゴールドシュミット会議では学会ブースで販売する。
- 2.6.4 Goldschmidt 2003組織(松久評議員，代理野津会長): 松久評議員がGeochemical Society Boardへのレポート内容について報告した。要旨は1,150件，グラントは90件(学生76，若手研究者14)。
- 2.6.5 選挙管理委員会(坂田評議員): 2003年8月29日に開票，投票総数177。
- 会長: 田中剛，副会長: 松田准一，監事: 脇田宏，評議員: (北海道)河村公隆，南川雅男，(東北)北逸郎，(関東)海老原充，赤木右，木多紀子，長尾敬介，佐野有司，米田成一，中井俊一，鍵裕之，川幡穂高，坂本尚義，横内陽子，奈良岡浩，(中部)和田秀樹，増澤敏行，山本鋼志，(近畿)宗林由樹，(中国四国)清水洋，千葉仁，(九州)村江達士，(次点)植田千秋(すべての当選者の次点)
- 2.7 学術会議
- 2.7.1 地球化学・宇宙化学研連(田中副会長): 本研連の定数が11名となった。地質科学総合研連の役割と構成が変わり，次期には地質環境専門委員会(仮称)となるため，未定である。科研費申請件数が15年度減少したので，申請を呼びかけたい。
- 2.7.2 海洋科学研連(蒲生幹事): 第18期第9回が平成15年5月14日(水)，第10回が平成15年7月14日(月)に開催された。配付資料に基づいて報告された。
- 2.7.3 陸水研連(代理鍵監事): 定員1名の減少に伴い，1名がオブザーバーとなることが申し送られている。詳細は未定。

2.8 連絡会等

2.8.1 地球惑星科学関連学会連絡会（清水評議員）：
連絡会委員長は地球化学会からでた清水評議員の任期が終了し、日本地震学会の平原氏に引き継がれた。鍵幹事はひきつづき庶務幹事を引き継ぐ。連絡会会長の順番は4,5年先になる。

2.8.2 学会ロゴ決定：1,2,3位を各3,2,1点と得点換算し、だけの人は各2点を得票として合計した。その結果、静岡在住の杉山氏の作品が選出された。総会で表彰される



3. 審議事項

3.1 入退会者の承認：2003年4月1日から2003年7月31日までの入退会者を以下の通り承認した（敬称略）
会員異動（2003/4/1～2003/7/31）

【入会】正会員52名（一般正会員10名、学生会員42名）

（4月）

- 2250 鄭 建 ZHENG Jian
放射線医学総合研究所放射線安全研究センター防護体系構築研究グループ
- 2251 橋 省吾 TACHIBANA Shogo
東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
- 2252 鈴木崇史 SUZUKI Takashi
日本原子力研究所
- 2257 鶴 和也 TSURU Kazuya
2245学 林 隆正 HAYASHI Takamasa
名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻
- 2246学 齋藤裕之 SAITO Hiroyuki
北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻
- 2247学 西谷啓伸 NISHITANI Hironobu
富山大学大学院理工学研究科生物圏環境科学専攻
- 2248学 鈴木麻衣 SUZUKI Mai
富山大学大学院理工学研究科生物圏環境科学専攻

2249学 八田真理子 HATTA Mariko
富山大学大学院理工学研究科生命環境科学専攻

2253学 清水 綾 SHIMIZU Aya
東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設

2254学 菅家博英 KANKE Hirohide
名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻

2255学 呉 佳紅 WU Jiahong
富山大学大学院理工学研究科生命環境科学専攻

2256学 朴 芝鮮 PARK Jisun
東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設

（5月）

2260 藤吉 瞭 FUJIYOSHI Akira
静岡大学教育学部理科教育

2261 松村美奈子 MATSUMURA Minako
（財）九州環境管理協会

2264 村上浩康 MURAKAMI Hiroyasu
産業技術総合研究所地圏資源環境研究部鉱物資源研究グループ

2258学 JENKINS Robert
東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻

2259学 戸丸 仁 TOMARU Hitoshi
東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻

2262学 KHAN M. Golam Mostofa
広島大学大学院生物圏科学研究科環境循環系制御学専攻

2263学 若木重行 WAKAKI Shigeyuki
名古屋大学大学院環境学研究科

2265学 DANIELACHE Sebastian Oscar
金沢大学大学院自然科学研究科物質化学専攻

（6月）

2266 永島一秀 NAGASHIMA Kazuhide
東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻

2275 近藤 恵 KONDO Megumi
お茶の水女子大学生活科学部

2267学 遠藤真紀 ENDO Maki
東京大学海洋研究所海洋科学国際共同研究セ

ンター
 2268学 中村篤博 NAKAMURA Tokuhiro
 東京大学海洋研究所海洋科学国際共同研究センター
 2269学 渡邊裕美子 WATANABE Yumiko
 東京大学地震研究所
 2270学 土井崇史 DOI Takashi
 東京大学海洋研究所海洋化学部門海洋無機化学分野
 2271学 大久保綾子 OOKUBO Ayako
 東京大学海洋研究所海洋化学部門海洋無機化学分野
 2272学 伊藤正一 ITO Shoichi
 東京工業大学大学院理工学研究科
 2273学 椎根 大 SHIINE Hajime
 北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻
 2274学 本郷やよい HONGO Yayoi
 東京大学海洋研究所海洋化学部門海洋無機化学分野
 2276学 田副博文 TAZOE Hirofumi
 東京大学海洋研究所海洋化学部門海洋無機化学分野
 2277学 西村智佳子 NISHIMURA Chikako
 大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻
 2278学 寶来佐和子 HORAI Sawako
 東京農工大学大学院農学研究科物質循環環境科学専攻
 2279学 森山文基 MORIYAMA Fumiki
 琉球大学大学院理工学研究科海洋自然科学専攻
 2280学 岡田孝一郎 OKADA Kouichirou
 琉球大学大学院理工学研究科海洋自然科学専攻
 2281学 渡慶次亮子 TOKESHI Ryoko
 琉球大学大学院理工学研究科海洋自然科学専攻
 2282学 野口拓郎 NOGUCHI Takuroh
 琉球大学大学院理工学研究科海洋自然科学専攻
 (7月)
 2295 笹川基樹 SASAKAWA Motoki
 東京大学海洋研究所海洋科学国際共同研究センター

2283学 大野 剛 OHNO Takeshi
 東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻
 2284学 若狭 幸 WAKASA Sachi
 筑波大学大学院生命環境科学研究科地球環境科学専攻
 2285学 白井直樹 SHIRAI Naoki
 東京都立大学大学院理学研究科化学専攻
 2286学 岡本千里 OKAMOTO Chisato
 東京都立大学大学院理学研究科化学専攻
 2287学 坂本丈明 SAKAMOTO Takeaki
 九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻
 2288学 上嶋敏功 UESHIMA Toshinori
 北海道大学大学院地球環境科学研究科地圏環境科学専攻
 2289学 市川 豊 ICHIKAWA Yutaka
 北海道大学大学院地球環境科学研究科地圏環境科学専攻
 2290学 宮入陽介 MIYAIRI Yosuke
 東京大学地震研究所地球ダイナミクス部門
 2291学 井上麻夕里 INOUE Mayuri
 産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門
 2292学 石崎 維 ISHIZAKI Yui
 東北大学大学院理学研究科連携講座
 2293学 浅田陽一 ASADA Yoichi
 東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻
 2294学 藤本隆之 FUJIMOTO Takayuki
 大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻
 2296学 竹井宗靖 TAKEI Muneyasu
 近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻

【退会】正会員 1 名 (学生会員 1 名) , 賛助会員 1 件
 滝雅人 , 日酸商事(株)

2003年 7月31日現在の会員数

	正会員 (一般正会員)	(学生)	(シニア)	賛助会員	名誉会員	計	(在外)
2003.4	971	(868)	(94)	(9)	14	13	998 (55)
入会	52	(10)	(42)				52
退会	1		(1)		1		2
変更		(+7)	(-7)				0 (-1)
2003.7	1022	(885)	(128)	(9)	13	13	1048 (54)

3 2 2004年度予算案が承認された。合同学会への分担金をはずした。会計費用を新たに設けた。
 3 3 「鳥居基金」応募要領の検討 ; 審査の過程で参考

となる資料を添付することを求める。申請要項の詳細については委員会でも再度検討し、募集の時期までに評議員会のメンバーの承認を取る。

- 3.4 学会賞選考委員会委員の選挙(2名): 兼岡一郎, 清水洋(次点野津憲治)を選出した。また, 清水洋委員を委員長に選出した。
- 3.5 鳥居基金選考委員会委員の選挙(1名): 赤木右(次点野尻幸宏, 海老原充, 蒲生俊敬, 石橋純一郎, 川幡穂高)を選出した。
- 3.6 総会の議事次第を審議した。

日本地球化学会2003年度 第4回評議員会議事録

日時: 2003年11月29日(土) 15:00~16:30

場所: 東京大学山上会館

出席者: 野津憲治会長, 田中剛副会長, 植松光夫, 鍵裕之, 蒲生俊敬, 奈良岡浩, 松田准一, 米田成一(以上幹事), 坂田将, 佐竹洋, 佐野有司, 清水洋, 富樫茂子, 長尾敬介, 野尻幸宏, 坂本尚義(以上現評議員), 赤木右, 海老原充, 河村公隆, 木多紀子, 宗林由樹, 千葉仁, 中井俊一, 松久幸敬, 村江達士, 山本鋼志, 横内陽子(以上次期評議員), 脇田宏監事

- 2003年度第3回評議員会議事録の承認
- 報告事項
 - 庶務(鍵幹事):【文部科学省】平成15年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表(B)」の実績報告書提出(10.2);平成15年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表(C)」の実績報告書提出(10.10);平成16年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表(B)」の研究成果公開発表申請書提出(11.19)(1,300千円,地球化学公開講演会,駿河湾から地球が見える)【日本学術振興会】平成16年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(学術定期刊行物)申請書提出(11.19)(7,626千円,4年間,A4化)【研究助成等】首都圏における多摩川およびその流域の環境浄化に関する研究の募集(とうきゅう環境浄化財団,締切:1.16);平成16年度研究奨励金応募者募集(新化学発展協会,締切:1.31)【後援・共催等】第52回「質量分析総合討論会」(2004.6.2~4,名古屋市工業研究所)共催;「Rare Earth '04 in Nara, Japan」(2004.11.7~12,奈良)協賛。

- 会計:なし
- 編集:なし
- 会員:なし
- 行事(和田幹事):2004年度地球化学会年会(2004年9月19~22日,静岡大学大谷キャンパス)の準備状況について報告された。初日は地球化学公開講演会「駿河湾から地球が見える」を予定。
- 委員会
 - 鳥居基金委員会(清水):応募要領の変更がすでに評議員会のメール審議で認められ,新しい応募要領で募集を開始する。
 - Goldschmidt 2003組織委員会(松久):第13回ゴールドシュミット国際会議の終了報告がされた。
- その他:地球化学会ロゴデザインの最終調整について報告された(和田幹事)

3. 審議事項

- 入退会承認:2003年8月1日から2003年11月30日までの入退会者を以下の通り承認した(敬称略)。
会員異動(2003/8/1~2003/11/30)

【入会】正会員7名(一般正会員0名,学生会員7名)

- (8月)
- 2297学 井上由美子 INOUE Yumiko
東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
- (10月)
- 2298学 岡崎裕典 OKAZAKI Yusuke
九州大学理学府地球惑星科学専攻
- 2299学 河野徹士 KONO Tetsuji
九州大学理学府
- 2300学 羅 王公泰 RA Kongtae
名古屋大学大学院環境学研究科
- 2301学 山田奈海葉 YAMADA Namiha
名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻
- 2302学 山下洋平 YAMASHITA Yohei
名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻
- 2303学 富山隆将 TOMIYAMA Takayuki
総合研究大学院大学数物科学研究科極域科学専攻

【退会】正会員19名（一般正会員13名，学生会員6名）

溝口次夫，大谷絢子，萩原俊夫，山岡到保，高橋洋，大関正春，大淵聡，可部谷哲治，山田治，高橋和志，高春心，坂井三郎，徐勝，今井志保（学），晴山美保子（学），村田拓自（学），山崎康介（学），半田智子（学），池田堅一郎（学）

2003年11月29日現在の会員数

	正会員（一般正会員）	（学生）	（シニア）	賛助会員	名誉会員	計	（在外）
2003.7	1022	(885)	(128)	(9)	13	13	1048 (54)
入会	7	(0)	(7)				7
退会	19	(13)	(6)				19
変更		(+2)	(-2)				0 (-3)
2003.11	1010	(874)	(127)	(9)	13	13	1036 (51)

	正会員（一般正会員）	（学生）	（シニア）	賛助会員	名誉会員	計	（在外）
2003.1	997	(892)	(96)	(9)	17	13	1027 (55)
入会	64	(13)	(51)				64 (1)
退会	51	(42)	(9)		4		55
		うち逝去1					
変更		(+11)	(-11)				0 (-5)
2003.11	1010	(874)	(127)	(9)	13	13	1036 (51)

3.2 GJと地球化学の製本/保管（田中副会長）：GJについてはGJ編集長と編集庶務（いまはない），地球化学については地球化学編集長，GJ編集長，GJ編集庶務がバックナンバーを保管することになっている。松田現GJ編集長のところには引き継がれていないので，現在は松久前GJ編集長のところにある。Vol.23以降が製本されていない。来年からA4化されるのでこの機会に製本を行う。どこに保管するかが問題である。学会事務センターに保管するという可能性もあるが，棚の空き状況などを検討する必要がある。ニュースについても保管を考えた方がよい。100号以降もこの機会に製本を考えた方がよいかもしれない。出費については今年度の会計から捻出する。

3.3 地球化学のA4化（蒲生幹事）：地球化学和文誌を従来のB5からA4へ変更することが提案され，審議のうえ承認された。地球化学誌を刷新し，イメージアップを図り，活字を大きくし，GJのA4化に合わせる。印刷費の若干の増加は許容範囲である。ニュースを同時にA4化することには支障はない。表紙のデザインについても再度検討する必要がある。来年度から進める。

3.4 ゴールドシュミット基金の依託運営について

（野津会長）：ゴールドシュミット国際会議（倉敷）に日本地球化学会から4年間，合計で約330万円を基金とした。会議を終わった結果，360万円程度の余剰金が発生した。今後の学会の国際化に向けて大きな支援となりうるため，余剰金の管理と運営を日本地球化学会に依託することが承認された。使途は今後，評議員会で議論する。共催金3,000ドルについては行事費などで支出することもあり得る。

3.5 次期評議員会への申し送り事項（野津会長）：2002～2003年度評議員会への申し送り事項とその対応結果について報告ののち，2004～2005年度評議員会以下の項目が申し送りされた。

- (1) 創設50周年の節目も終え，次の50年に向けて将来計画委員会を立ち上げて欲しい。
- (2) Goldschmidt 2003を期に，日本地球化学会はGSやEGUとともに主催団体になったので，以下の約束事項を実行して欲しい。
 - ・ボードミーティングへの出席
 - ・3,000ドルの抛出の予算化
 - ・GJ賞の授賞式の全体会議での実施
 - ・会員へのGoldschmidt参加の奨励
- (3) 上記事項とも関連して，日本地球化学会の国際化に向けての以下の施策を考えて欲しい。
 - ・HP英文化
 - ・在外会員の権利等について会則の整備
 - ・アジアの連合体の組織化に向けた準備
- (4) HPの更新や，メールニュースの充実のために外部依託を頼むなどの方策を考えて欲しい。メールニュースのアドレスの追加や削除が現状ではなされていない。また，Webによる年会登録，要旨作成システムをさらに進めて欲しい。
- (5) Goldschmidt 2003時に学生会員の増加があったが，滞納会員の予備軍にならないような積極的な方策をとって欲しい。滞納会員の扱いについては会員数増加策と一緒に考えて欲しい。
- (6) GJは投稿数が急激に増えており，インパクトファクターも上昇しているため，A4化した上で，編集体制の効率化をはかって欲しい。
- (7) 地球化学講座はまだ1冊しか出版されておらず，早急に全8巻の完成を目ざして欲しい。
- (8) 役員選出細則の改訂検討（誰が選挙権を有するか記載がない，慣例で在外会員は選挙権を与えていないが与えてはどうか，ブロック区分が必要か）

第19期第1回地球化学・宇宙化学 研究連絡委員会議事録

日時：2003年12月16日(火) 13:30~16:30

場所：日本学術会議第4部会議室(6階)

出席者：山中高光(会員), 海老原充(地球化学), 佐野有司(地球化学), 清水洋(地球化学), 下山晃(化学), 留岡和重(鉱物), 中村栄三(岩鉱), 平原和郎(地球物理研連)

欠席者：蒲生俊敬(地球化学), 鈴木徳行(地質), 長尾敬介(地球化学)

議事に先立って委員の自己紹介を行った。委員長として清水委員が推薦され、了承された。また、幹事として海老原委員(庶務), 長尾委員(渉外)が推薦され、了承された。

報告事項

1. 学術会議関係(山中会員より)

- (1) 日本学術会議改革推進委員会(10月30日開催)
日本学術会議の改革の骨子について配布資料をもとに説明があった。改革案の主な内容は以下の通り。
 - (i) 部の構成：従来の7部制から3部制(「人文社会系」「生物生命系」「理工系」)
 - (ii) 会員数：210(現行通り)
 - (iii) 会員任期：6年(3年ごとに半数改選), 再任不可, 70歳定年
 - (iv) 初回の会員選出：30名程度の委員からなる「日本学術会議会員選考委員会」が主体となり, 学協会の協力を得ながら210名の候補者名簿を作成し, 日本学術会議会長に提出する。
 - (v) 2回目以降：co-optation(会員は会員が選ぶ)の理念に基づいて, 会員が「選考委員会」を設置し, 学協会の協力を得ながら候補者を選出する。
 - (vi) 連携会員：従来の研連委員に変わるもので, 任期3年で再任可。70歳定年。初回は会員が「選考委員会」を設置して選考し, 2回目以降は会員と同様の手続き(上記(v))による。会長が任命。課題別研連の見直し必定。
 - (vii) 総合科学技術会議との関係：「科学者コミュニティの代表機関」として, 対等の位置づけ。これに関連して, 以下の点が言及された。
 - (a) 19期の活動期間として2年間が見込まれる

が, 場合によっては延びる可能性もある。

- (b) 新しい学術会議はこれまでの様なボトムアップ方式はとらない。また, 学協会の役割としては, 学術会議に意見を具申し, 求めに応じて情報を提供することであり, これまでの関係よりは稀薄になろう。

(2) 科研費制度の改正

審査員の選任にあたっては日本学術会議と学術振興会(学振)が協力しておこなうが, 日本学術会議は選任に関する重要な情報を提供し, 選任の主体は学振におかれるプログラムオフィサーの責任で行う。プログラムオフィサーは70人程度の組織で, 学術会議からの情報に加えて, それ以外の情報も加味して行うことが明文化された。

2. 第18期からの引き継ぎ事項(清水委員長)

18期研連からの引き継ぎ事項をまとめた資料「第19期地球化学・宇宙化学研究連絡委員会への申し送り事項」(2003年5月15日)をもとに, 報告があった。このことに関して, 以下のことが確認された。

- (i) 従来本研連はIAGCの国内対応団体として機能してきたが, 国会員の廃止に伴い, 学術会議からの分担金支払いがなくなった。会費の負担を伴わない形での対応研連となるべく, 繋がりを強化する方策を模索する必要がある。
- (ii) 2008年に計画されている国際隕石学会の日本開催に対して, 研連として積極的に支援する。

審議事項

1. 国際会議への代表派遣について

平成15年度の追加派遣募集(締切11月14日)に対しては申請をしなかった。平成16年度の派遣候補者募集(締切12月8日)に対して, 清水洋委員を推薦した。これらは本研連第1回委員会の開催前に締切が設定されていたために, 山中会員の責任で対応した。この件に関して事後承諾された。

2. 第17回国際堆積学会(2006)への対応について

学術会議への国際堆積学会議の学術会議共同主催の申請書(副申)案への同意と申請書に本研連委員長名を連記することの依頼があった。2006年には, 地球化学宇宙化学に関連の深い国際会議が日本において複数開催されるが, 本研連としては関連のあるこれらの複数の国際会議に対して同等の支援を行うことを原則とし, 日本学術会議への国際堆積学会議の共同主催の申請(副申)の研究連絡委員会には加

わらないこととした。また、後援の要請があれば了承することを合意した。

3. 第19回国際鉱物学会(2006)の後援依頼に対して研連として後援することを了承した。

4. 平成17年度科学研究費補助金審査委員候補者の推薦に係る分科細目別対応研連の見直し等について

(1) 分科細目別対応研連の見直し

12月17日締切の標記意見聴取に対し、本研連としては変更の希望はない旨の返答をすることにした。

(2) 平成16年度科学研究費補助金審査委員候補者推薦作業に関する意見

12月17日締切の標記意見聴取に対して、出来るだけ学協会の推薦を尊重して欲しい旨の意見を伝えることにした。

5. 平成18年度科学研究費補助金に係るキーワードの見直しについて

1月23日締切の標記検討依頼に対して、前回の変更案をもとに1月16日までに清水委員長宛に希望・意見を申し述べ、委員長が取りまとめて見直し案を作成し、提出することで合意した。

6. 平成17年度科研費審査員候補者の推薦依頼に関して

平成17年度も従来と同じ方針で審査員候補者の推薦依頼を行うことが了承された。

その他

1. 意見書の作成に関して

海老原委員から、地球化学、宇宙化学の研究に大きな役割を果たしている研究用原子炉の将来にいくつかの危惧される事態が生じていることに対して、本研連として何らかの対応をして欲しいとの要望がだされた。研連として正式な対外表明を文書で出すことは難しいので、研連委員の個人的立場での意見書を出すことで合意した。

2. 次回の委員会の日程について

次回の委員会を3月8日午後1時半より開催することとし、申し送り事項にある懸案、特に今期の活動計画に関して議論することとした。

東北大学21世紀 COE「先端地球科学 技術による地球の未来像創出」

地球進化史グループ：博士研究員募集(2件)

(1) 16年度 COE 博士研究員(ポスドク)募集
(生命起源、初期進化に関する研究)

東北大学21世紀 COE プログラム「先端地球科学技術による地球の未来像創出」では、生命起源、初期進化に関する研究を行える博士研究員1名を募集します。(www.geophys.tohoku.ac.jp/21_coe/COE.htmを参照)博士の学位を既に有している方、もしくは2004年4月1日付けで博士の学位を修得見込みの方で、35歳以下の方が対象になります。

(1)衝撃波発生装置を用いた有機 鉱物反応、(2)化学進化に対する有機地球化学的研究、(3)初期地球環境、生命活動に対する地質学的、地球化学的研究、(4)現世海底熱水系における微生物 鉱物相互作用研究のいずれかが行える方が対象となります。16年度4月から採用となります。任期は2年で、業績に応じて延長可能、月額30万円前後支給されます。応募希望者は履歴書、研究計画、推薦状、論文の別刷りを下記までお送りください。2月6日から審査を開始し、適任が見つかった段階で公募を締め切ります。平成16年4月1日以降できるだけ早い時期(応談)に着任できる事が条件です。

応募に関する問い合わせ先および応募書類送り先:

〒980 8570 仙台市青葉区荒巻字青葉

東北大学大学院理学研究科

21世紀 COE 地球科学事務室

熊谷志津子

(封筒にポスドク応募進化1と朱書きする事)

kumagai@ganko.tohoku.ac.jp,

Tel & Fax : 022 217 6668

研究内容に関する問い合わせ先:

掛川 武

akegawa@mail.tains.tohoku.ac.jp,

Tel & Fax : 022 217 6660

Postdoctoral Position for the Early Life Evolution

We seek a candidate for a postdoctoral fellowship position to work with two or more faculty affiliates within the Geosciences Department at Tohoku University. Research possibilities include, but are not limited to, organo-mineral interaction studies using high pressure apparatus, various experiments

for the chemical evolution, geological and geochemical researches on Archean rocks to investigate the early life activities, and biogeochemistry on the modern submarine hydrothermal system.

Salary is ~ 300000 yen/month. Applicants should be under 35 years old. The initial appointment last for two years and will extend for one year with a potential second year granted with satisfactory progress. Applicants need to send vita, statement of research interests, the names of two professional references and reprints of publications to Dr. Takeshi Kakegawa, Geosciences Department, Faculty of Science, Tohoku University, Sendai, 980-8570, Japan. The review of applications will begin on February 6th, 2004, and continue until a position is filled. For more information, please visit the web site: www.geophys.tohoku.ac.jp/21_coe/COE.htm

(2) 16年度 COE 博士研究員 (ポスドク) 募集
(小天体衝突事変に関する研究)

東北大学21世紀 COE プログラム「先端地球科学技術による地球の未来像創出」では、小天体衝突事変に関する研究を行える博士研究員 1 名を募集します。(www.geophys.tohoku.ac.jp/21coe/COE.htmを参照) 博士の学位を既に有している方、もしくは2004年4月1日付けで博士の学位を修得見込みの方で35歳以下の方が対象になります。下記の分析・計算ができる方が対象となります：(1)硫黄同位体比分析、(2)ストロンチウム同位体比分析、(3)気候シミュレーション。16年度4月から採用となります。任期は2年で、業績に応じて延長可能、月額30万円前後支給されます。応募希望者は履歴書、研究計画、推薦状、論文の別刷りを下記までお送りください。2月6日から審査を開始し、適任が見つかった段階で公募を締め切ります。平成16年4月1日以降できるだけ早い時期(応談)に着任できる事が条件です。

応募に関する問い合わせ先および応募書類送り先：

〒980 8570 仙台市青葉区荒巻字青葉
東北大学大学院理学研究科
21世紀 COE 地球科学事務室
熊谷志津子
(封筒にポスドク応募進化2と朱書きする事)

kumagai@ganko.tohoku.ac.jp,
Tel & Fax : 022 217 6668

研究内容に関する問い合わせ先：

海保邦夫
kaiho@dges.tohoku.ac.jp,
Tel : 022 217 6615

Postdoctoral Position for the Extraterrestrial Impact Events

We seek a candidate for a postdoctoral fellowship position to work with two or more faculty affiliates within the Geosciences Department at Tohoku University. Research possibilities include, but are not limited to, sulfur isotope analyses, strontium isotope analyses, and climate simulation to investigate extraterrestrial impact events, probably related to mass extinctions of life on Earth.

Applicants should be under 35 years old. Salary is ~ 300000 yen/month. The initial appointment last for two years and will extend for one year with a potential second year granted with satisfactory progress. Applicants need to send vita, statement of research interests, the names of two professional references (including e-mail address) and reprints of publications to Dr. Kunio Kaiho, Geosciences Department, Faculty of Science, Tohoku University, Sendai, 980-8570, Japan. The review of applications will begin on February 6th, 2004, and continue until a position is filled. For more information, please refer the web site:

www.geophys.tohoku.ac.jp/21_coe/COE.htm.

**北海道大学大学院理学研究科
地球惑星科学専攻教官公募**

1. 職種・人員・専攻分野
地球惑星物質圏科学講座 教授 1 名
専攻分野：地球化学(固体地球, 惑星物質, 水岩石相互作用など)
2. 応募資格：博士号を取得していること
3. 着任予定時期：決定後できるだけ早い時期
4. 応募書類
イ) 履歴書(内外の学会活動, 受賞歴, 参加しているプロジェクト研究歴, 各種研究費受領歴なども

- 記載すること)
- ロ) これまでの研究経過 (2,000字程度)
- ハ) 研究業績目録 (和文のものは和文で表記すること)
- A. 査読のある原著論文
B. 査読のない論文, 総説など
C. 著書
D. 解説, 報告などその他の出版物で特に参考になるもの
- ニ) 主な原著論文の別刷または著書 10篇以内 (複写可)
- ホ) 今後の教育・研究の計画・抱負 (2,000字程度)
- ヘ) 応募者について照会が可能な方2名の氏名と連絡先
5. 応募締め切り: 2004年3月7日(日) 必着
封筒の表に「教官公募関係」と朱書きし, 簡易書留にて郵送すること。
また, 公募書類中の第1ページに応募先講座名を明記すること。
6. 書類の送付先及び問い合わせ先:
〒060 0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻
鈴木徳行
Tel: 011 706 2730 (ダイヤル・イン)
Fax: 011 746 0394
E-mail: suzu@ep.sci.hokudai.ac.jp
1. 職種・人員・専攻分野
地球惑星進化科学講座 講師1名
専攻分野: 地球表層圏の進化や変動に関する堆積地球化学, またはテクトニクス
(着任後には IODP「国際統合深海掘削計画」に積極的に参画することを希望する)
2. 応募資格: 博士号を取得していること
3. 着任予定時期: 決定後できるだけ早い時期
4. 応募書類
イ) 履歴書 (内外の学会活動, 受賞歴, 参加しているプロジェクト研究歴, 各種研究費受領歴なども記載すること)
- ロ) これまでの研究経過 (2,000字程度)
- ハ) 研究業績目録 (和文のものは和文で表記すること)
- A. 査読のある原著論文
B. 査読のない論文, 総説など

- C. 著書
D. 解説, 報告などその他の出版物で特に参考になるもの
- ニ) 主な原著論文の別刷または著書 5篇以内 (複写可)
- ホ) 今後の教育・研究の計画・抱負 (2,000字程度)
- ヘ) 応募者について照会が可能な方2名の氏名と連絡先
5. 応募締め切り: 2004年3月28日(日) 必着
封筒の表に「教官公募関係」と朱書きし, 簡易書留にて郵送すること。
また, 公募書類中の第1ページに応募先講座名を明記すること。
6. 書類の送付先及び問い合わせ先:
〒060 0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻
鈴木徳行
Tel: 011 706 2730 (ダイヤル・イン)
Fax: 011 746 0394
E-mail: suzu@ep.sci.hokudai.ac.jp

地球惑星科学専攻 教官構成 (2003年12月1日現在)
地球惑星物質圏科学講座

- 教授 宇井忠英 (退官予定),
藤野清志, 小笹隆司 (本公募)
- 助教授 菊地 武 (退官予定), 新井田清信,
橋元明彦, 角皆 潤, 永井隆哉
- 講師 三浦裕行
- 助手 中川光弘, 中川書子

地球惑星進化科学講座

- 教授 岡田尚武, 鈴木徳行, 在田一則
- 助教授 藤原嘉樹 (退官予定), 川村信人,
西 弘嗣 (2004年2月着任予定)
- 講師 沢田 健 (本公募)
- 助手 岩田圭示, 前田仁一郎

地球惑星流体科学講座

- 教授 播磨屋敏生, 渡部重十, 林 祥介
- 助教授 知北和久, 見延庄士郎, 倉本 圭
- 講師 遊馬芳雄
- 助手 小高正嗣

地球惑星物理科学講座

教授 西田泰典 (退官予定), 小山順二,
蓬田 清, 池田隆司
助教授 森谷武男, 笹谷 努, 前田 丞
助手 吉澤和範

地震火山研究観測センター (協力講座)

教授 島村英紀, 笠原 稔, 岡田 弘
助教授 高波鐵夫, 茂木 透, 大島弘光,
谷岡勇市郎, 橋本武志
助手 山本明彦, 勝俣 啓, 高橋浩晃,
村井芳夫, 森 濟, 西村裕一, 青山 裕

総合博物館 (教育協力)

教授 松枝大治
助教授 箕浦名知男

なお, 教育・研究にあたっては上記の講座制にかかわらず, 研究室・グループ制で運営されており, その構成は年々変更が可能です。また全教官は, 大学院教育のほか, 全学教育・学部教育も担当しています。

岡山大学固体地球研究センター研究員公募

岡山大学固体地球研究センター (三朝) は平成15年度から「固体地球科学の国際研究拠点形成」で21世紀COEとして採択されました。当拠点では(1)Post-doctoral fellowships, (2)Ph. D. studentships, (3)Collaborative research を以下の要領で国内・外で広く公募します。

当拠点の詳細については私どものウェブサイトをご覧ください。

<http://www.misasa.okayama-u.ac.jp>

(1) Call for COE-21 Post-Doctoral Fellows at ISEI, Misasa

The Institute for Study of the Earth's Interior (ISEI), Misasa, Japan, is accepting applications for international post-doctoral fellowships from outstanding young scientists. ISEI has been selected as a Center of Excellence for the 21st Century (COE-21), and is designated as an "Establishment of International Research Center of Solid Earth Science". This designation is founded upon the advanced experimental and analytical techniques that have

been developed at ISEI, with the aim of understanding the origin, evolution and dynamics of the Earth. Advanced facilities in three basic research areas including high-pressure and -temperature materials science, isotope and trace element geochemistry, and high-resolution geochronology are concentrated in this institute and are operated at an extraordinarily high-level.

As part of this program we can offer several international post-doctoral fellowships. Fellowships are initially for one year, with the possibility of extension to up to four years depending on progress. Fellowships include a generous stipend of ~\$40,000 per year, including round trip airfare. Interested individuals should send a proposal of up to two pages in length that includes a general statement of the proposed research and a general research plan that includes what type of facilities are required. Applicants should also send complete curriculum vita and contact information (postal address, telephone, fax and e-mail) for three references. Non-English speaking foreign applicants are also required to submit TOEFL records if they have. A detailed description of ISEI, its faculty, and available experimental and analytical facilities can be found at our website: <http://www.misasa.okayama-u.ac.jp/home.shtml>

Applications should be sent to:

Professor Eizo Nakamura, Director
Institute for Study of the Earth's Interior
Okayama University at Misasa
Tottori 682-0193 JAPAN
E-mail: coe@misasa.okayama-u.ac.jp
Voice & Fax: +81-858-43-3789

(2) COE-21 Ph. D. studentships available at ISEI, Misasa

The Institute for Study of the Earth's Interior (ISEI) was established to conduct research on the origin, evolution and dynamics of the Earth, with research foci on analytical geochemistry, and high-pressure and temperature material sciences. The ISEI has been selected as a Center of Excellence for

the 21st Century (COE-21), and is designated as an “Establishment of International Research Center of Solid Earth Science” based upon the development of advanced experimental and analytical techniques by its researchers. As part of the COE-21 program, the ISEI seeks to support some foreign Ph. D. students. Foreign and domestic students working at the ISEI will benefit from excellent research facilities and an extremely stimulating intellectual environment. Each student will be assigned a thesis evaluation committee consisting of one international researcher and one domestic researcher from within the field of study, and three COE-21 program members from the ISEI. Students will be fully supported by the COE-21 program.

A solid science background is a prerequisite for admission to our program; however, study programs designed on an individual basis will provide strength in areas appropriate to the planned research. Applicants should hold, or expect to soon hold, a master’s degree or have otherwise demonstrated their abilities to conduct research. Although the ability to communicate in Japanese is not required to enter our graduate school, the ISEI will offer some elementary-level Japanese language courses. Adequate skills in English communication are required and non-English speaking applicants must submit TOEFL and GRE General Test records. Our graduate school belongs to the Graduate School of Natural Sciences and Technology, Okayama University; deadlines for domestic applications are at the beginning of February and at the end of August, and deadlines for foreign applications are at the beginning of February and May. Eligibility to apply will be checked by the admission office 3 ~ 4 weeks before submission of applications. Before submissions, applicants should contact faculty with whom they anticipate working for information regarding education and research programs at ISEI, admission processes, and life in Japan. Please Visit the following web sites for further information:

ISEI:

<http://www.misasa.okayama-u.ac.jp/home.shtml>
Graduate School:

<http://www.gnst.okayama-u.ac.jp/index-e.html>

Applications should be sent to:

Professor Eizo Nakamura, Director

Institute for Study of the Earth’s Interior

Okayama University at Misasa

Tottori 682-0193 JAPAN

E-mail: coe@misasa.okayama-u.ac.jp

Voice & Fax: +81-858-43-3789

(3) Call for COE-21 Collaborative Research at ISEI, Misasa

The Institute for Study of the Earth’s Interior (ISEI), Misasa, Japan, is accepting applications from outstanding scientists for international collaborative research. ISEI has been selected as a Center of Excellence for the 21st Century (COE-21), and is designated as an “Establishment of International Research Center of Solid Earth Science”. This designation is founded upon the advanced experimental and analytical techniques that have been developed at ISEI, with the aim of understanding the origin, evolution and dynamics of the Earth. Advanced facilities in three basic research areas including high-pressure and -temperature materials science, isotope and trace element geochemistry, and high-resolution geochronology are concentrated in this institute and are operated at an extraordinarily high level.

As part of this program we are embarking on an effort to promote collaborative research between ISEI and international scientists. Successful applicants will be entitled one round trip airfare for up to three individuals (students and post-docs included), with living expenses paid for the duration of the visit. Visiting scientists will benefit from free access to analytical equipment as specified and agreed to on the basis of proposed research. Interested parties should send a proposal of up to three pages in length that includes:

1. A general statement of the proposed research.

2. A general research plan that includes what type of facilities are required.
3. A list of members of the research team and their role in the proposed research. Applicants should also send complete curriculum vitae for all research team members.

A more detailed description of ISEI, its faculty, and available experimental and analytical facilities can be found at our website:

<http://www.misasa.okayama-u.ac.jp/home.shtml>

Applications should be sent to:
 Professor Eizo Nakamura, Director
 Institute for Study of the Earth's Interior
 Okayama University at Misasa
 Tottori 682-0193 JAPAN
 E-mail: coe@misasa.okayama-u.ac.jp
 Voice & Fax: +81-858-43-3789

名古屋大学年代測定総合研究センター 非常勤研究員（研究機関研究員）公募

身分・任期・給与

非常勤研究員（研究機関研究員） 1名

雇用期間は会計年度内とし、業務の必要性及び勤務実績により再雇用する（原則として平成18年3月未まで。ただし、状況に応じて最長平成19年3月未まで。）

給与は給与規程により決定（月額で25万円程度の見込み）。

就任時期は6月を予定。

応募資格：下記のすべての条件を満たしていること。

- (1)平成16年4月1日現在で年齢35歳未満
- (2)博士の学位を有しているか、又は就任までに学位取得が確実であること
- (3)就任予定時に主たる職、或いは大学院学生・研究生等の身分を有しないこと

研究分野：下記のいずれかの研究が行えることが望ましい。

- (1)CHIME年代（地質年代）研究
- (2)炭素14年代研究
- (3)K-Ar年代測定開発研究

応募書類：

- (1)履歴書
- (2)研究業績一覧（査読論文、その他の論文、学会発表等を区別して記載）

(3)代表的な論文2編以内のコピー

(4)研究計画（A4 一枚に簡潔に記すこと）

〒464 8602 名古屋市千種区不老町
 名古屋大学年代測定総合研究センター
 鈴木和博宛
 に簡易書留で送付。

応募締切：平成16年4月2日(金) 必着

詳しい情報は 名古屋大学年代測定総合研究センター
 鈴木和博 (E-mail: suzuki@nendai.nagoya-u.ac.jp)

(Tel : 052 789 3090)

中村俊夫 (E-mail: nakamura@nendai.nagoya-u.ac.jp)

(Tel : 052 789 3082)

加藤丈典 (E-mail: kato@nendai.nagoya-u.ac.jp)

(Tel : 052 789 2598)

小田寛貴 (E-mail: oda@nendai.nagoya-u.ac.jp)

(Tel : 052 789 2596)

までお問い合わせ下さい。

年代測定総合研究センターの概要はホームページ

<http://www.nendai.nagoya-u.ac.jp>

に掲示してあります。

財団法人神奈川科学技術アカデミー 研究助成募集のご案内（第一段階）

1. 助成の趣旨及び方法

本助成制度は、意欲ある若手研究者が自発的に計画する、神奈川県民及び神奈川県内産業への寄与が期待される先端的科学技術分野の創造的基礎研究に対して助成を行い、地域の創造的、先駆的な研究の発掘、育成に貢献することを目的とします。

助成の方法：研究の進展により次表の段階的助成を行います。

研究の性格	第一段階	探索・シーズ発掘
	第二段階	検証・シーズ育成
	第三段階	展開・応用

一件当たりの助成限度予定額（予定件数）

第一段階	50万円以内（8件以内）
第二段階	150万円以内
第三段階	300万円以内

募集方法	第一段階	公募
	第二段階	前段階対象者
	第三段階	前段階対象者

研究期間 当該年度未まで

2. 助成対象研究課題研究課題が、神奈川県民及び神奈川県内産業への寄与が期待され、科学技術発展のためのシーズとして大切な創造的基礎研究（対象となる分野は別表を参考にしてください）であり、企業利益を直接の目的としないものを対象とします。
3. 助成対象者神奈川県内在勤又は在住の若手研究者（おおむね40歳以下）で、勤務先の承諾を得られる方を対象とします。

在勤地及び居住地ともに神奈川県外の方は応募できませんので、お気をつけください。

4. 助成対象の経費対象となる経費は、研究に要する物品購入費、旅費、その他必要な経費とします。
5. 申請の方法

- (1) 申請書は所定の用紙を事務局に請求のうえ、必要事項を記入し、事務局宛に送付してください。

なお、提出の際は、原本1組、複写1組の合計2組が必要です。

ご郵送なされる場合は、できるだけ簡易書留でお願いします。

- (2) 第一段階に再申請する方は、新たに申請書を作成のうえ提出してください。

なお、これまでに同一テーマで第一段階の助成対象となっているものは再申請できません。

- (3) 選考の過程で必要な資料の提出等を求めることがあります。なお、受理した書類は返却しません。

6. 申請書提出の締切り平成16年4月9日(金) 必着

7. 選考当財団の助成審査委員会において審査のうえ、理事長が決定します。

選考の基準については、研究課題の学術レベルはもとより、神奈川県民及び神奈川県内産業への寄与、助成対象における所属機関の偏在等を考慮し対象を決定します。

8. 採否の決定及び研究助成金の交付

採否の決定は平成10年6月頃の予定です。（採否にかかわらずその旨を通知します。）

なお、助成金は手続き終了後交付します。

9. 研究成果等の報告

交付決定後、KAST 広報誌用研究計画原稿、研究終了後、2週間以内に研究報告書、決算報告書及び文部科学省大学共同利用機関国立情報学研究所データベース登録用研究成果概要を提出してください。

10. その他

- (1) 第二段階及び第三段階は、それぞれ前段階で助成対象となった研究課題で、申請のあった者のうち、その研究成果等に基づき、引き続き助成の必要性が認められる研究に対し助成します。

- (2) 本案内についてご不明の点は、下記事務局までお問い合わせください。

別表（範囲については参考例です。）

審査区分 応募範囲

数物系 数物系科学（数学，物理学，プラズマ科学ほか）

工学（応用物理学，工学基礎，機械工学，電子電気工学，土木工学，建築学，総合工学）

総合・複合新領域（地理学，情報学，ナノ構造科学，マイクロ・ナノデバイス，社会安全システム工学など）

化学系 化学（基礎化学，複合化学，材料化学）

工学（プロセス工学，材料工学）／農学（農芸化学）／薬学（創薬化学）

総合・複合新領域（ナノ材料・ナノバイオ科学，環境学，マイクロ・ナノデバイス 化学系）

生物・農学系 生物学（基礎生物学，生物科学，人類学）／農学（農学，林学，水産学，農業工学，畜産学，獣医学，境界農学）

総合・複合新領域（ゲノム科学－生物系，生物分子科学，神経科学）

医学系 医歯薬学（薬学，基礎医学，歯学，社会医学，看護学，内科系臨床医学，外科系臨床医学）

総合・複合新領域（人間医工学，実験動物学，ゲノム科学－医学系）

この審査区分は文部科学省科学研究費補助金を参考に、一部変更して作成しています。

【注意】

この募集は、できるだけ早く助成金を交付するため、平成16年度財団予算成立前に行うものです。したがって、予算成立時には助成金額等が変更になる場合があります。

《事務局・申請書送付先》

財団法人神奈川県科学技術アカデミー教育交流部
交流普及課

〒213 0012 神奈川県川崎市高津区坂戸3 2 1

KSP 西棟6 F

Tel : 044 819 2032 , Fax : 044 819 2097

書評

同位体科学研究会開催のご案内

皆様におかれましては御健勝で、益々の研究・教育に御活躍のことと拝察いたしております。さて、同位体はさまざまな学術分野で、その研究の道具として広く用いられていますが、その各分野における同位体そのものの研究はマイナーな領域となっています。

この度、特に安定同位体の諸物性、分離・分配、その応用等、「安定同位体」を共通のキーワードとする研究会を、来る3月16日(火)東京工業大学原子炉工学研究所で開催するはこびとなりました。安定同位体を研究の対象となさっている皆様に、是非御参加をいただきたく、ここに御案内申し上げます。そのプログラムを次のアドレスに掲載しております。

http://www.nr.titech.ac.jp/Japanese/News/Data/yfujii_040316.html

この研究会を、安定同位体に関する知識とその認識を新たにし、新たな研究の視点を見いだす絶好の機会となる会にしたいと考えております。本研究会を今後も継続させるべく、「同位体科学研究会」をこの機会に発足させたいと考えております。同位体科学に関心のある研究者の方々に、本研究会への参加を広く呼びかけていただけると幸いです。

同位体科学研究会準備委員会：藤井靖彦，野村雅夫，大井隆夫，長尾敬介，竹下健二，垣内正久

連絡先：

〒152 8550 東京都目黒区大岡山2 12 1
東京工業大学原子炉工学研究所藤井研究室
野村雅夫
Fax : 03 5734 2958
E-mail: mnomura@nr.titech.ac.jp

第41回理工学における 同位元素・放射線研究発表会

主催：日本アイソトープ協会

会期：2004年7月7日(水)～7月9日(金)

会場：日本青年館（東京・新宿）

発表申し込み締め切り：2004年2月29日(日)

申込方法・連絡先：日本アイソトープ協会ホームページ（<http://www.jrias.or.jp>）

「資源環境地質学 地球史と環境汚染を読む」
資源地質学会編 A 4 版 492ページ
資源地質学会刊 2003年発行 5,000円（税別）

本書は資源地質学会の創立50周年を祝う中で企画されたものである。もともと資源地質学会は鉱山地質を中心として発展してきたが、1991年に資源地質学会として、資源という広いカテゴリーを対象とするように改められた。本書は、「資源地質」という言葉よりはるかに広い領域をカバーしている。狭義の「資源地質」とは濃集した金属あるいは有機化合物に関係した地質、地球化学、地球物理学、資源工学などに限定される。しかし、金属の濃集過程とは、金属元素の地球規模での分布、輸送、濃集過程を含んでおり、『地球化学』という学問とも密接に関連しているといえる。

本書で扱っている項目は非常に多岐にわたっており、第1章では資源の多様性ということで、岩石圏で生じた資源（例えば、ペグマタイト鉱床、スカルン鉱床）、水圏・生物圏で生じた資源（例えば、別子方鉱床、黒鉱鉱床）などが取り上げられている。次の第2章では鉱床形成を地球史との関連でまとめられており、岩石圏の進化とマグマ熱水系では、プレートの沈み込み様式と鉱床タイプ、水圏・生物圏の進化と資源形成では、海水の化学進化ということをストックウムの同位体を通じて考えたり、石油・天然ガス鉱床の発達と海水準変動が密接に関係していることが論じられたりしている。また、地球化学にとっても興味深いトピックとなっている地球大気がいつから酸化になったのか、といった科学的に重要な問題についても最新の成果がもりこまれている。第3章では資源地質研究法として、同位体や古地磁気に基づく年代法の原理から、実際の分析法、そして応用についても述べられている。そして、「資源地質学」あるいは『地球化学』の研究でどのような知見が得られたのかについても言及されている。金属資源の場合には、濃集物が固相である場合が多く、鉱液の生成、移動、鉱物の沈積といったような場面では、水・岩石の反応が極めて重要な働きをしていることが多い。そこで、この章の最後には水・岩石反応に関わる、実験法あるいは解析法について解説されている。特に、高温の条件下で形成した金属鉱床の場合、熱力学的な解析は有力な手法で

あるため、現在残されている鉱物あるいは流体包有物より、温度、圧力、溶液組成などを推定するための手法とその背後にある理論について解説がある。最後の第4章のタイトルは、資源と環境である。鉱山の稼働には、周囲の環境の保全が求められたこともあり、資源と環境とは実は密接な関係がある。本書で扱われている相当部分は、固相と液相との相互作用から発したものが多く、これは土壌汚染の研究にも応用されている。第4章の最後には資源地質の将来と題して、資源・環境問題と人間社会システム、直面する3大鉱物資源問題など、人類が直面している諸問題を論じながら、将来の課題をあぶりだしている。

最初にも述べたが、本書は資源地質を中心に扱っているが、『地球化学』も含む広い分野を網羅している。このような状況から、一人か二人の著者が全部を網羅するのはほぼ不可能であるため、70余のそれぞれの専門家によって執筆されている。本書は、どちらかという自分の興味のある課題あるいは問題について、知識を得たい、あるいは関連する分野をより深く探求したいといった際に、本書を事典として活用するのが最もよい使い方もかもしれない。実際、引用文献も充実しており、有用な本であると自信をもって言える。
(産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門 川幡穂高)

「Developments in geochemistry 8

Geochemical and tectonic evolution of arc-backarc hydrothermal systems implication for the origin of Kuroko and Epithermal vein-type mineralizations and the global geochemical cycle

(地球化学発展シリーズ 8

島弧 背弧系の熱水循環系の地球化学的そしてテクトニクスの進化 黒鉱および浅熱水性型鉱床の鉱化作用と地球的規模の地球化学的物質循環への意義)

鹿園直建著 B5版 463ページ

Elsevier 出版 2003年発行 1万8,000円(税別)

本書は日本列島が位置する島弧あるいはその周辺に特徴的に発達した鉱床や熱水活動について、地球化学的観点とテクトニクス観点からその本質を論じたものである。具体的には、新第三紀と現代に焦点を絞り、熱水活動の背後にある地球科学のプロセスを明らかにしている。

本書を読んでまず驚かされるのは、この本の基礎となった情報量である。著者が本書を執筆する際に参考

となった論文は、黒鉱や浅熱水性鉱床にだけでも2,000を越えている。そして、羅列的に記載するのではなく、それらを系統的に整理し、その支配因子の抽出を行っている。しかも、地質学的年代のみならず、現在この地域に見られる陸上地熱地帯、1980年代後半から大発展した海底の熱水系の研究から得られた知見も含めて、熱水活動に伴う水-岩石相互作用の一般性に到達している。

本書の第1章のタイトルは「日本および周辺地域での中新世から鮮新世までの熱水性鉱床」である。まず、日本列島および周辺地域のメタロジェニーとテクトニクスの概要、新第三紀の熱水性鉱床の概要と分類を行っている。次に、黒鉱鉱床、浅熱水性鉱床について詳細な記載、分析データおよび解釈が具体的に紹介されている。すなわち、これらの鉱床が産出する周辺の地質構造、岩石区、テクトニクスの時代的変遷、産出鉱物の種類・化学組成・同位体比、流体包有物により推定された温度あるいは塩分、ガスの分圧、流体の化学組成、産出鉱物と熱水との化学・同位体の平衡関係などの解析を通じて、鉱床はどのように形成したのか、どのような鉱液が関係したのか等について解説がある。第1章の最後では、これらの鉱床が形成された当時の地質構造や応力場、火山活動といった地質学的因子と最終的に黒鉱鉱床や北海道での鉱脈型の鉱床の形成との関係を議論している。

本書の第2章は「日本および周辺地域での現在の鉱化作用と地熱活動」ということで、熱水変質鉱物の組み合わせと地熱水との関係について記述した後、日本の地熱地帯での鉱化作用について紹介している。次に、1980年代後半から急速に発展した海底熱水活動研究について、中央海嶺と島弧系の両方の情報をまとめている。そして、高温熱水、沈積する鉱石、変質岩など地球化学的側面とともに、地質構造も考慮した上で、黒鉱とともに日本を代表する熱水性鉱床である別子型鉱床について、その起源を論じている。

本書の第3章では、まとめとして「背弧海盆、島弧における熱水活動によるフラックスと全球的地球化学的な物質循環」というタイトルで、鉱床というものをもたらした背弧海盆、島弧における熱水活動が、全球的な物質循環の中でどのような位置をしめているのかを解説している。特に、熱水活動による寄与が注目される炭素、硫黄、ヒ素、水銀、マンガン、バリウムが扱われている。

最後の第4章は、「熱水活動による二酸化炭素フ

ラックスが第三紀の気候変化に与えた影響」ということで、固体地球と地球表層環境との接点を探っている。地球表層環境の温度の決定には火山活動で放出される温室効果気体が重要な役割を果たしてきたと言われている。背弧海盆、島弧系における火山活動は揮発成分に富むことが知られており、日本列島および周辺でおこった第三紀の火山活動は全球の地球環境にも大きな影響を及ぼした可能性が高い。

本書は熱水活動に伴う資源地質ばかりでなく、むしろ地球化学的な特徴を抽出した書といえる。繰り返し

になるが、各章ごとの引用文献は非常に充実しており、海底熱水活動については近年の著しい進歩も盛り込まれている。熱水活動という言わば資源地質から興味をもたれていた分野は、全球的な地球化学的物質循環、そして、現在では地球環境や地下生物圏といった生物地球科学へと発展している。本書はこの地球に「熱水活動」がもたらしたさまざまな地球科学的産物を理解しやすく提示しているという点で、強くお勧めする次第である。

(産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門 川幡穂高)

訃報：Toshiko K. Mayeda

(Chicago 大学 Enrico Fermi 研究所)



2002年度の日本地球化学会功労賞を受賞された Chicago 大学 Enrico Fermi 研究所の Toshiko K. Mayeda さんが、2004年2月13日(金曜日)、肺がんのため亡くなった。81歳。

Mayeda さんは、ノーベル賞受賞者の Urey 博士のもとで1950年代から同位体地球化学の研究に携わり、海水や炭酸塩の水素、酸素、炭素同位体の測定を行うなど、安定同位体を用いた古気候の研究の基礎を築いた。1960年代からは Robert Clayton 教授と岩石・鉱物の酸素同位体分析法の開発を行い、1973年、炭素質隕石中のインクルージョンに酸素同位体異常を発見した (Science, 182, 485-488) ことに端を発して、その仕事は太陽系における隕石や惑星の成因関係を明らかにする研究に発展した。Clayton 研究室から発せられたこれらの研究成果は、Mayeda さんの実験室における綿密で精力的な仕事なしには生まれなかったといえる。

Mayeda さんは、学生や若い研究者に対して、実験室ばかりでなく彼らの私生活においても、惜しみない助力と励ましを与えた。今では、彼女を母のように慕う研究者が世界中に散らばって活躍している。これは日本の研究者についても例外ではなく、現在日本地球化学会の中核で活躍している多くの研究者が彼女の恩恵をこうむっている。日本地球化学会では、Mayeda さんのこのような貢献に感謝して、2002年度の学会功労賞を贈った。今思えば、この受賞が間に合って本当によかったと思う。

葬儀は、親戚はじめ Chicago 大学の多くの同僚や友人が参列する中、2月20日(金曜日)、Chicago 市の Lake View 斎場において、悲しみの中にも暖かな雰囲気で行われた。2002年の功労賞受賞の際に一緒に来日されたご主人も昨年4月に亡くなり、ご遺族は、結婚されているお嬢さんおひとりである。

ご遺族の住所は以下のとおり。

Sibyl and Jack Yau
5339 Crain Street,
Skokie, IL 60077, USA

(松久幸敬)

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

皆様の情報・原稿をお待ちしています。地球化学に関連した研究集会、シンポジウムの案内、人材募集、書評、研究機関の紹介など何でも結構です。編集の都合上、電子メール、フロッピー(マックもしくは Dos/V いずれでも結構です)での原稿を歓迎いたしますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2004年6月上旬頃を予定しています。ニュース原稿は4月上旬までにお送りいただくよう、お願いいたします。また、ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者

米田成一

〒169 0073 東京都新宿区百人町3 23 1
国立科学博物館理工学研究部
Tel : 03 3364 7142, Fax : 03 3364 7104
E-mail:s-yoneda@kahaku.go.jp

高橋和也

〒351 0198 埼玉県和光市広沢2 1
理化学研究所加速器基盤研究部
小林貴之(ホームページ)
〒156 8550 東京都世田谷区桜上水3 25 40
日本大学文理学部

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

皆様の情報・原稿をお待ちしています。地球化学に関連した研究集会，シンポジウムの案内，人材募集，書評，研究機関の紹介など何でも結構です。編集の都合上，電子メール，フロッピー（マックもしくは Dos/V いずれでも結構です）での原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2004年6月上旬頃を予定しています。ニュース原稿は4月上旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者

米田成一

〒169 0073 東京都新宿区百人町3 23 1
国立科学博物館理工学研究部

Tel : 03 3364 7142 , Fax : 03 3364 7104

E-mail:s-yoneda@kahaku.go.jp

高橋和也

〒351 0198 埼玉県和光市広沢2 1
理化学研究所加速器基盤研究部

小林貴之（ホームページ）

〒156 8550 東京都世田谷区桜上水3 25 40
日本大学文理学部